



第五課

茶碗の湯

单語

微細 → 細かな・些細な

表 → 面 (おもて・つら)

冷える → 冷やす

無数 → ?

群がる

霧 → 霧、霜、露

縁側

日向

透かす

ちらちら → ちらっと～

单語

薄雲 → 飛行機雲、積雲

靡く

竜巻

模様 → パターン

ゼン (前・善・禪・膳・全)

蓋 (ふた)

斑 (むら)

境

殊に：他と比べて際立っている。「この子は—甘いものが好きだ」

→ とりわけ：同じようなものの中でも、その程度が際立ってはなはだしいさま。

→ 特に

単語

戸惑う：予想外の事に、どう対処していいかわからずにはまごつく。

抑える：重要な点を確実に認識・理解する。「要点を一・える」

文型

1.～は（～だけでは・～には・～て/では）

- ① 特に一つの物事をとりあげて提示する。例：「お酒一ぼくが買う」
- ② 題目を提示して、叙述の範囲をきめる。例：「象一鼻が長い」
- ③ 二つ以上の判断を対照的に示す。例：「親に一孝行、友人に一信義」
- ④ 叙述を強める。〔格助詞・副詞などに付いて〕意味や語勢を強める。「君と一もう会わない」
〔動詞・形容詞の連用形、および助詞「て・で」に付いて〕一続きの叙述の一部分を強調する。
「絶対に行き一しない」「少なくともわかって一いる」「まだ書いて一いない」
- ⑤ 「...（で）は...（だ）が」の形で〕譲歩の気持ちを表す。活用語の連用形に付くこともある。
例：「雨も、降り一降ったが、ほんのわずかだ」「ごめんどうで一ございますが」

文型

⑥ 動作・作用の行われる条件・事態を表す。例：「会社として一万全の備えをするつもりです」

2.～み・～さ

「～み」は形容詞・形動動詞そのもののことと指す。つまり、形容詞・形容動詞の名詞に当たる。

「～さ」は、形容詞・形動動詞が指すものの程度を指す。つまり、どれほどあるのかを意味する。

例：この果物は甘みがない (○) この果物は甘さがない (×)

果物の甘みと、ケーキの甘みは種類が違う (×)

果物の甘さと、ケーキの甘さは種類が違う (○)

深さ (×深み) 10メートルの穴

川の深み (×深さ) にはまる 深み (×深さ) のある言葉

文型

3.～と・～たら・～なら・～ば

- ①後節が客観的事態が続くかどうか（意志的表現が使えるかどうか）
- ②前節と後節の主体が同一であるかどうか（前節と後節の主語が同じか違うか）
- ③仮定条件か既定条件か

～と：①二つの動作・作用が同時に行われることを表す。例：「庭に出るー, 犬がとんできた」

②同じ主体の動作・作用が引き続いて起こることを表す。例：「電車を降りるー, ホーム

をかけだした」

③次に起こる動作・作用のきっかけを表す。例：「山を見るー, 友人のことが思い出され
る」

文型

～と：④ ある条件が備わると、いつも同じことが起こるということを表す。例：「夏休みになる一、海は海水浴客でにぎわう」

～なら（ば）：前文を条件として述べるときに用いる。例：「全員そろったね。一はじめよう」

～ば：① 順接の仮定条件を表す。未成立の事柄を仮定し、それを条件として表す。

例：「雨が降れ一、試合を中止する」「君さえよけれ一、一緒に行こう」

② 順接の既定条件を表す。理由・根拠となる動作・作用を条件として示す。

例：「日が沈め一夜になる」

～たら：① 仮定条件を表す。仮にそうであるならば。

例：「雨が降ったら、中止にする」「電話があったらメモしておいてくれ」

文型

② 未来の確定条件を表す。

例：「春になつたら暖かくなる」

精読

1. どうして茶碗の湯の面から白い湯気が立っているのが見えるのか。
2. どうやって湯が熱いか温いかがわかるのか。
3. 線香の煙はどういうふうにあがるのか。
4. 雨後の庭の土に暖かい日光が当たると、何が見えるのか。
5. 白い茶碗に入っている湯を日光や夜電灯の光を当ててみると、何に気づくのか。
6. 蓋をしないでおいた茶碗の湯はどのような冷え方をするのか。
7. 科学研究をする人には、どういうような素質が必要なのか。